当日配付資料

令和３年 10 月 19 日
課　名　商工労働局イノベーション推進チーム
担当者　課長　長谷川
内　線　3354

ひろしまイノベーション推進機構の投資先企業の株式の譲渡等について

１　株式の譲渡について

ひろしまイノベーション推進機構（以下「機構」）は，機構が運営する１・２号ファンドが保有する投資先企業（株式会社なかやま牧場，株式会社ビーシー・イングス）の株式の譲渡について，次のとおり実施することを決定した。

○　対象企業

（１）株式会社なかやま牧場（福山市駅家町法成寺 1575-16，以下「なかやま牧場」）

【企業概要】

代表者	代表取締役社長　増成　吉彦
資本金	５，０００万円
売上高	約１８０億円［令和２年１０月期］
従業員数	８０３名［令和２年１０月末現在］
事業内容	肉牛の肥育，食肉加工，総合食品スーパーの一貫経営

（ア）譲渡等の内容

①　譲渡した株式等及び譲渡総額

対象	保有するなかやま牧場株式及びなかやま牧場発行社債の全部
総額	約１２億円（うち今回譲渡分：約７億円）（回収に係る費用等（見込み）を含む）

※投資額：約７億円（平成２７年８月投資決定及び平成２８年１０月追加投資決定）
平成 30 年 10 月に，投資額約７億円のうち約２億円相当分を譲渡しており，今回は残りの約５億円分を譲渡した。

②　譲渡等の方法
なかやま牧場による株式の買戻し及び社債の償還

③　譲渡等を公表した日
令和３年 10 月 15 日

（イ）譲渡等に至った経緯

○　なかやま牧場は，福山市に本社を置き，全国有数規模の畜産業を営むと同時に，備後地区中心に直営のスーパーマーケットを展開している，いわゆる六次産業の先駆けともいうべき企業である。

○　機構は，なかやま牧場の事業承継を含む経営体制の強化や高付加価値化ニーズ等を背景に，平成２７年７月に投資を決定し，さらに平成２８年１０月には追加投資を行い，経営管理面及び事業面で支援を継続してきた。

○　この間，業績も投資前の平成２６年１０月期の売上高１３２億円，経常利益２億４，５００万円から，令和２年１０月期は売上高１８０億円，経常利益８億６，０００万円に成長した。

○　機構としても，当初想定していた成長戦略及び経営管理の強化等の支援も一定の成果があり，業績も安定成長してきていることから，なかやま牧場と協議し，機構が保

有する株式の全部をなかやま牧場に譲渡し，併せて，なかやま牧場が発行し機構が引き受けた社債の全部も償還することとした。

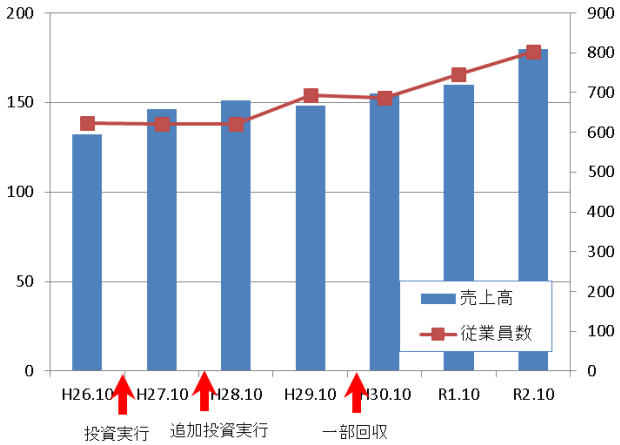
（ウ）　機構が果たした役割等

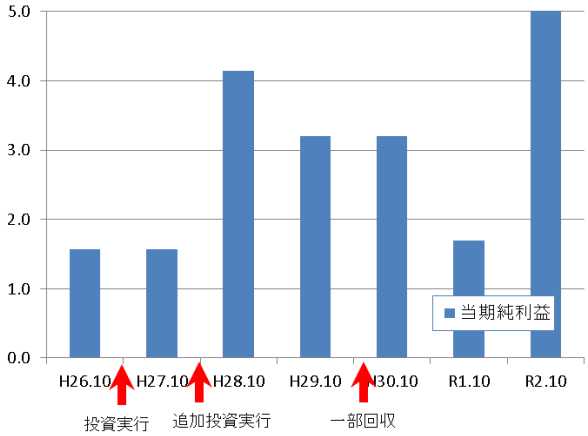
○　機構は，平成２７年８月の投資決定以降，成長戦略及び経営管理の強化に関する支援等を行ってきた。

○　具体的には，機構から社外取締役を派遣し，組織再編などのグループ体制の整備を主導したほか，新規出店，外販や生産の改善の取組などの支援を実施した。

○　また，後継の経営者の育成と円滑な承継を実施した。

○　これらの支援により，売上高は投資決定時の約１３２億円から約１８０億円に，利益も３倍増となっており，雇用についても，投資決定時の６２２人から８０３人に増加している。





（エ）　今後の展望

○　なかやま牧場は，更なる新規出店を含めた小売部門の強化に加え、生産性向上に向けた人材育成やブランド認知を上げるための EC 販売強化などにも取り組むことで、更なる成長を図っていく。

（２）株式会社ビーシー・イングス（広島市南区松原町 10-23，以下「ビーシー・イングス」）

【企業概要】

代表者	代表取締役社長　森藤　啓（もりとう　けい）
資本金	９，０００万円
売上高	約３４億円［令和２年 11 期］
従業員数	１，１１１名（うち正社員２５４名）［令和２年 11 月末現在］
事業内容	学習塾「田中学習会」及び東進衛星予備校の運営等

（ア）譲渡等の内容

① 譲渡した株式等及び譲渡総額

対象	保有するビーシー・イングス株式の全部
総額	約８億円〈回収に係る費用等（見込み）を含む〉

※投資額 約８．８億円〈投資費用を含む〉（平成２９年１１月投資決定）

② 譲渡等の方法

第三者への株式の売却

譲渡先：英進館株式会社（福岡市）

③ 譲渡等の日

令和３年９月 30 日（譲渡等を公表した日：令和３年 10 月 15 日）

（イ）譲渡等に至った経緯

○ ビーシー・イングスは広島市に事業所を置き，学習塾（田中学習会，東進衛星予備校（フランチャイズ）等）の運営を主事業としており，特定の地域に集中的に教室を展開することで認知度の向上や経営効率を高める戦略により，事業の拡大を図ってきた。

○ 近年は，これまでに蓄積した経営ノウハウを踏まえて岡山県や大阪府などの県外へも進出を図るなど，積極的な事業拡大を図ってきた。

○ また，保育所や放課後児童クラブの待機児童の増加が社会問題となる中，「預かり」と同社がこれまで培ってきた「教育ノウハウ」を組み合わせることにより，企業内保育や学童保育事業などに参入するなど，社会的意義が高い教育・保育分野での事業展開も図ってきた。

○ 機構は，ビーシー・イングスのオーナー経営から組織経営への移行支援や事業展開支援ニーズ等を背景に，平成２９年１１月に投資を決定し，経営管理面及び事業面で支援を継続してきた。

○ この間，業績は，投資前の平成２９年１１月期は売上高３４億円，当期純利益２，３００万円から，令和２年１１月期の売上高は３４億円，当期純利益８，８００万円となり，新型コロナウイルス感染症が拡大している状況下にあっても，財務状況は健全化している。

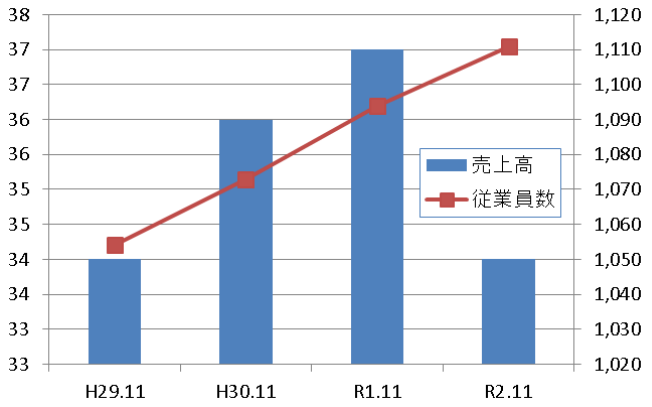
○　この度，機構として，経営管理体制の構築や労働環境の改善等への支援等，当初想定していた支援は概ね完了していることから，ビーシー・イングスの更なる事業発展を実現するため、同じく東進衛星予備校を運営し事業面のシナジー効果が高く、地理的にも相互補完関係を築くことが可能な英進館株式会社に株式を譲渡することとなった

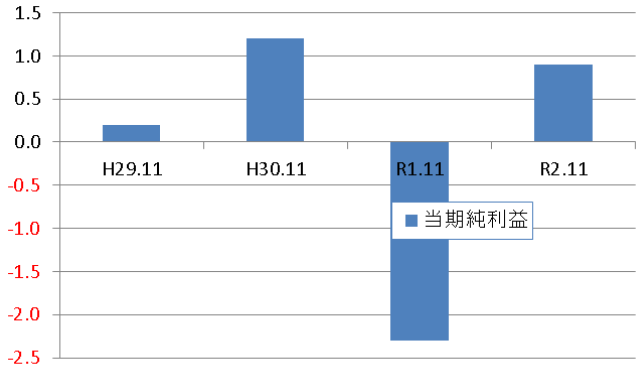
（ウ）　機構が果たした役割等

○　機構は，平成２９年１１月の投資決定以降，経営体制の強化や内部管理体制の整備を中心とした支援等を行ってきた。

○　具体的には，オーナー経営から組織経営への移行支援，数値・KPI による管理体制の構築，講師の労働環境の改善支援等を実施した。

○　経営陣・社員の努力もあり，業績は伸長してきており，コロナ禍の状況にあっても，Web 授業の導入を速やかに実施する等により，経営状況は回復基調にある。





（エ）　今後の展望

○　ビーシー・イングスは，新たに株主となる英進館株式会社という事業パートナーとともに，引き続き広島地域を中心に田中学習会として学習塾事業を展開するなど，更なる成長を図っていく。

２　３号ファンドによる投資の実行について

機構は，機構が運営する３号ファンド（県は出資していない）を通じて，次の企業に対して投資を実行したことを発表した。

企業名（所在地）	事業内容	公表日
株式会社ツーセル （広島市南区）	再生医療等製品の研究開発・製造・販売	令和３年 10 月 15 日